

評価点 5：優れている 4：やや優れている 3：概ね適正である 2：改善に向けた検討が必要である 1：早急な改善が必要である

評価項目	評価基準	評価点	評価の理由
施設コンセプトに基づく取組	多様なニーズに対応する本や情報の提供を行った	3	<p>■各部門毎に担当者を設定するとともに、定期的に選書会議を開催し課題や方針の確認を行っている。また、利用者からのリクエストに対応し、ニーズの反映に努めている。</p> <p>■郷土の歴史や文学に対するレファレンスについては多方面からのニーズに応えることができる一方、一般的なレファレンス対応については、十分な体制をとることができていない。</p>
	活発な読書活動を促す環境や事業の充実を図った	4	<p>■地域の知の拠点となる図書館として図書館利用者が多く集まる魅力ある図書館づくりのため、様々なイベントを行っている。</p> <p>・企画本コーナーでは季節や時事の話題をテーマにした資料を排架している。</p> <p>・一般利用者による「一箱本棚」を設け、取り組みを様々なメディアを活用してPRを行った。</p> <p>・マイナンバーカードやスマートフォン等に表示される図書館利用者カードのバーコードで圖書の貸出し、LINEによるサービス提供など、図書館サービスの拡充を図った。</p> <p>■図書館と6つのネットワーク施設の司令塔としての役割を認識し、日々の業務に取り組んでいる。</p> <p>・各図書館等で生じる疑義や問い合わせなどに対して迅速な対応に努めている。</p> <p>・図書館、ネットワーク施設を結ぶオンラインシステムの不具合については、直接、現地に向かうなどの対応を行っている。</p> <p>・新規事業を実施する際は、現地に赴いて事業内容や操作等の説明を実施している。</p>
	子ども読書活動の推進に向けた取組を図った	4	<p>■図書館に興味を持ってもらい、利活用を推進するための取り組みとして、読み聞かせやワクワク図書館員、図書館こどもクラブ、調べ学習の基礎講座を開催した。</p> <p>・市教育委員会と連携し、電子書籍を学習用端末で利用できるよう取組の推進を図った。</p>
	地域資料の保存と活用にに向けた取組を進めた	4	<p>■地域資料の保存・活用にに向けたデジタル化</p> <p>・劣化が進んでいる図書館所蔵の地方新聞のマイクロフィルムの一部について、デジタル化（DVD化）を進めた。</p> <p>■地域資料の修復</p> <p>・歴史資料の修復</p> <p>・文学資料の脱酸処理</p> <p>■地域資料の活用</p> <p>・これまで公開されていなかった資料を中心に「図書館の宝もの」の中で展示し、広く公開した。</p> <p>■貴重資料 資料目録の整備</p> <p>・これまで公開してきた目録について、追加寄贈分ほかについて加筆・修正を行った。また、未整理資料について目録化を進めた。</p>
	滞在型図書館としての環境向上に向けた取組を進めた	4	<p>■協議会の中で、「館内利用における事例について」を報告し、委員の皆様から頂いた意見を参考に、館内利用のマナーとルールを明文化した「小田原市立中央図書館を気持ちよく利用していただくために」を取りまとめ運用を開始した。</p> <p>■土日、祝日は集会室又は研修室を学習室として開放しているところであるが、創作室についても自由研究などの学習活動に利用できるよう開放を行った。</p>
職員の育成	図書館事業の理解促進と専門性向上に向けた取組を行った。	3	<p>■県立図書館が主催する研修（11/8「児童書の調べ方」、11/21「子どもの本の紹介文の書き方」）への参加や、司書職員を含む図書館員が一堂に会して選書会議や業務検討・打合せなどを定期的に開催し、図書館員の資質・能力の向上に努めている。</p>

小田原市立中央図書館自己評価表（令和５年度分）

評価点 ５：優れている ４：やや優れている ３：概ね適正である ２：改善に向けた検討が必要である １：早急な改善が必要である

評価項目	評価基準	評価点	評価の理由
カウンターサービス、利用者サービスに関する取組	カウンター業務をはじめとする利用者対応は適切であった。	4	<ul style="list-style-type: none"> ■カウンターに直接寄せられる意見は、図書館運営に生かしている。 ・カウンターに寄せられる利用者からの意見、指摘を受けて、業務改善できることは早急な対応に努めている。（談話室の照度の調整、カートやバスケットの配置など） ・利用者からの意見と対応内容については供覧し、図書館職員で共有している。
	利用者ニーズの把握に努め、ニーズを反映に向けた取組を行った。	3	<ul style="list-style-type: none"> ■各種事業を開催する際にアンケートを実施している。また、ご意見箱を設置し利用者ニーズの把握に努めている。 ・ご意見箱を設置し、利用者からの意見、指摘を基に、業務の改善を図っている。 ・ご意見箱からの意見、カウンターへの口頭での意見を参考に、改善できることは、迅速に対応している。
	レファレンス機能の充実に向けた取組を行った。	3	<ul style="list-style-type: none"> ■地域資料に関する利用者の疑問・要望に答えている。 ・レファレンス記録を作成し、内容をデータ化するなどして、図書館員で共有している。 ■一般的なレファレンス対応について、体制整備を図っていくことが必要と考えている。
	バリアフリーを意識した具体的な取組を実施した。	4	<ul style="list-style-type: none"> ■新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、実施を見送っていた「バリアフリー映画会」を再開した。 ■電子図書館事業を継続し、多様化する図書館利用者の利便性を高め、市民等に対する図書サービスの拡大・向上を図るとともに、読書バリアフリー法に基づく視覚障がい者等の読書環境の向上に寄与した。また、引き続き、音声読み上げに対応する資料の利用契約により、コンテンツが増加している。（R4末：219、R5末：617）
事業実施・情報発信	図書館ボランティアや関係団体との連携を図った	4	<ul style="list-style-type: none"> ■図書館ボランティアのかもめ図書館フレンズ、すずの会、ピーターパン、おはなしたんぽぽ、さざなみ会と連携を図っている。 ・各図書館ボランティアと協力し、定期的な読み聞かせのほか、映画会やおりがみ教室などを行っている。
	多様な蔵書・資料を活用した事業を行った	4	<ul style="list-style-type: none"> ■地域資料コーナーにおいて、「図書館の宝もの」展を開催し、地域資料を展示・公開し、貴重資料を広く市民に紹介した。 ・関東大震災から100年を迎えることから、「100年前の目撃者」と題し、昭和26年に大島環氏より寄贈された写真アルバム2冊と、その解説メモ帳の実物とそれらをパネルにしたものを展示・公開した。写真アルバムは、大島環氏が自身のカメラで、地震翌日から3か月の間撮影したもの、実弟の卓氏が撮影した写真とで成り、写真をアルバムに整理する際、環氏が撮影日を入れ書き記したメモを公開した。
	図書館事業の周知や情報発信に努めた。	4	<ul style="list-style-type: none"> ■図書館事業の開催や読書週間などの時事にあわせ、様々な手段による情報発信を行った。 ・図書館事業の開催や参加者の募集など、広報やホームページ、こゆるぎ通信などを活用している。また、不定期ではあるが、X（旧ツイッター）も活用し情報発信をしている。さらにLINEでの情報発信を追加している。 ■小学生向けのおすすめ本のリストを4月（子どもの読書週間）（4月は低学年向け）、7月（夏休み期間）、10月（読書週間）に、中高生向けは7月（夏休み期間）、10月（読書週間）に、図書館及び図書施設で配布するほか、各学校を通じて学校図書館で配布している。
小田原駅東口図書館との連携について	小田原駅東口図書館との円滑な連携を図るための取組を行った	4	<ul style="list-style-type: none"> ■東口図書館開館当初から図書館運営上の課題や改善点を議題とする打合せや、情報交換を行っている。 ■それぞれの館の選書担当者が集まり、合同選書会議を開催し収集方針などについて話し合いを行った。
	小田原駅東口図書館との機能や特徴の違いを踏まえ、相互に補足する動きができた	3	<ul style="list-style-type: none"> ■中央図書館と東口図書館のサービス向上と機能向上を図るため、日ごろから各業務担当者間で情報交換を行っている。
その他事項	施設について、効率的かつ効果的な維持管理ができた。	3	<ul style="list-style-type: none"> ■既設の蛍光灯や水銀灯からLEDへの切り替えを実施した。 ■執務室など、老朽化による故障のため開閉ができない窓の改修を実施した。